

# 女川原子力発電所 環境放射能調査結果(案)

令和4年度第4四半期

## 目 次

1	環境モニタリングの概要	1
(1)	調査実施期間	1
(2)	調査担当機関	1
(3)	調査項目	1
2	環境モニタリングの結果	3
(1)	原子力発電所からの予期しない放出の監視	3
イ	モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による 空間ガンマ線量率	3
ロ	海水(放水)中の全ガンマ線計数率	3
(2)	周辺環境の保全の確認	14
イ	電離箱検出器による空間ガンマ線量率	14
ロ	放射性物質の降下量	14
ハ	環境試料の放射性核種濃度	14

## 資 料

1	調査地点	27
2	測定方法及び測定機器等	31
(1)	測定方法及び測定機器	31
(2)	モニタリングステーションにおける空間ガンマ線量率の評価方法	35
(3)	検出下限値及び数値の表し方	36
3	測定結果	37
(1)	モニタリングステーションにおける空間ガンマ線量率測定結果	37
(2)	海水(放水)中の全ガンマ線計数率測定結果	70
(3)	空間ガンマ線積算線量測定結果	74
(4)	移動観測車による空間ガンマ線量率測定結果	76
(5)	環境試料の核種分析結果	78
イ	ゲルマニウム半導体検出器による分析結果	78
ロ	Sr(ストロンチウム)-90の分析結果	84
ハ	H-3(トリチウム)の分析結果	84
4	女川原子力発電所の運転状況	85
(1)	1号機の廃止措置の状況	85
(2)	2号機の運転状況	85
(3)	3号機の運転状況	86
(4)	放射性廃棄物の管理状況	87
(5)	モニタリングポスト測定結果	88

## 1 環境モニタリングの概要

女川原子力発電所環境放射能測定基本計画及び同実施計画に基づき、令和4年度第4四半期に実施した環境モニタリングの概要は、以下のとおりである。

### (1) 調査実施期間

令和5年1月から令和5年3月まで

### (2) 調査担当機関

	調査担当機関
宮城県	環境放射線監視センター
東北電力(株)	女川原子力発電所

### (3) 調査項目

東北電力(株)女川原子力発電所から周辺地域への予期しない放射性物質の放出を監視するため、周辺11か所に設置したモニタリングステーションで空間ガンマ線量率を、また同発電所放水口付近3か所に設置した放水口モニターで海水(放水)中の全ガンマ線計数率を、それぞれ連続で測定した。

また、周辺地域における放射性降下物の状況のほか、人工放射性核種の放射能濃度の推移を把握し、同発電所の運転に伴う環境への放射能の影響の有無を評価するため、各種環境試料について核種分析を行った。

なお、評価にあたっては、原則として原子力発電所から周辺環境へ放出されるおそれのある核種のうち女川原子力発電所環境放射能測定基本計画における環境放射能評価方法において規定する人工放射性核種(以下「対象核種」という。)を対象として行う。

表-1に令和4年度第4四半期の調査実績を示す。

表-1 令和4年度第4四半期の調査実績\*

調査対象	検出器及び試料名		宮城県		東北電力		合計	
			地点数	測定頻度 または 試料数	地点数	測定頻度 または 試料数	地点数	測定頻度 または 試料数
空間 ガンマ 線	線 量	モニタリング グステーシ ョン (MS)・ NaI	7	連続	4	連続	11	連続
		電離箱	7	連続	4	連続	11	連続
	率	広域MS	10	連続	/		10	連続
		移動観測車	NaI	24	1回	17	1回	41
	積算線量		RPLD <sup>*2</sup>	19	1回	13	1回	32
海水(放水)中の全ガン マ線計数率		NaI	/		3 <sup>*3</sup>	連続 <sup>*3</sup>	3 <sup>*3</sup>	連続 <sup>*3</sup>
降下物		月間	2	6	2	6	4	12
		四半期間	3	3	2	2	5	5
環 境 放 射 能	陸 上 試 料	農産物	/		/		/	
		陸水	2	2	1	1	3	3
		陸土	/		/		/	
		浮遊じん	2	6	4	8	6	14
	指標植物	/		1	1	1	1	
	海 洋 試 料	魚介類	/		1	1	1	1
		海藻	/		/		/	
		海水(共沈法)	/		2	2	2	2
		海水(迅速法) <sup>*4</sup>	1	2	(1)	1	1(1)	3
		海底土	/		2	2	2	2
指標海産物(灰化法)		3	3	4	4	7	7	
指標海産物(迅速法) <sup>*4</sup>	(3)	3	(3)	3	(6)	6		
降下物及び環境試料数合計			13	25	19	31	32	56

\*1 対照地点を含む。

\*2 RPLDは蛍光ガラス線量計のことをいう。

\*3 1号機放水口モニターについては、令和4年7月7日～令和5年3月23日の期間、仮設放水口モニターで代替測定し、評価した結果のため、参考値扱いとする。

\*4 共沈法または灰化法に合わせて実施している場合の地点数はカッコ書きとし、合計に含めない。

## 2 環境モニタリングの結果

本期間中の環境モニタリングの結果、周辺11か所に設置したモニタリングステーションの空間ガンマ線量率及び発電所放水口付近3か所に設置した放水口モニターの海水（放水）中の全ガンマ線計数率において、異常な値は観測されなかった。

降下物及び環境試料からは、対象核種のうちCs（セシウム）-137及びSr（ストロンチウム）-90が検出されたが、他の対象核種については検出されなかった。

以上の環境モニタリングの結果並びに女川原子力発電所の運転状況及び放射性廃棄物の管理状況から判断して、女川原子力発電所に起因する環境への影響は認められず、検出された人工放射性核種は東京電力(株)福島第一原子力発電所事故（以下「福島第一原発事故」という。）と過去の核実験の影響と考えられた。

### (1) 原子力発電所からの予期しない放出の監視

#### イ モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率

原子力発電所からの予期せぬ放射性物質の放出を監視するため、周辺11か所のモニタリングステーションで、NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率を連続で測定した。その結果を図-2-1から図-2-11に示す。

現在推移している線量率には、福島第一原発事故により地表面等に沈着した人工放射性核種の影響が認められる。また、一時的な線量率の上昇が観測されているが、これは主に降水による天然放射性核種の降下の影響と考えられ、女川原子力発電所に起因する異常な線量率の上昇は認められなかった。

#### ロ 海水（放水）中の全ガンマ線計数率

放水口付近の3か所の放水口モニターで海水（放水）中の全ガンマ線計数率を連続で測定した。その結果を図-2-12から図-2-15に示す。

海水（放水）中の全ガンマ線計数率の変動は、降水及び海象条件他の要因による天然放射性核種の濃度の変動によるものであり、女川原子力発電所に起因する異常な計数率の上昇は認められなかった。

表 2-2 空間ガンマ線量率及び海水中全ガンマ線量率の評価結果 (NaI(Tl)検出器による指標線量率、空間ガンマ線量率及び海水(放水)中の全ガンマ線量率 ※1)

(1) モニタリングステーション

調査機関	局名	指標線量率					スペクトルに異常がみられたデータ数(個) ※2			発電所起因 ※3 データ数(個)			空間ガンマ線量率 調査レベル ※4						
		設定値 (nGy/h)	超過数(個)			割合(%)	1月	2月	3月	合計	1月	2月	3月	合計	設定値 (nGy/h)	超過数(個)			割合(%)
			1月	2月	3月											1月	2月	3月	
宮城県	女川	2.7	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	36.1	70	155	131	356	2.75
	飯子浜	3.3	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	49.0	82	149	152	383	2.96
	小笠取	3.8	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	55.5	81	157	170	408	3.15
	奇磯	3.5	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	42.6	76	116	121	313	2.42
	鮫浦	3.7	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	57.6	66	114	133	313	2.42
	谷川	3.9	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	55.6	76	146	151	373	2.88
	荻浜	4.0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	60.9	70	177	182	429	3.31
東北電力	塚浜	3.3	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	56.3	80	156	156	392	3.03
	寺間	3.2	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	46.0	79	160	150	389	3.01
	江島	2.6	4	0	0	0.03	4	0	4	0	0	0	0	39.2	87	187	191	465	3.59
	前網	4.0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	61.4	79	151	156	386	2.98

※1 今期の全データ数は、欠測がないものとして12960個/局である。

※2 指標線量率が設定値を超過し、空間ガンマ線スペクトルに人工核種のピーク等の異常がみられたデータの個数である。

※3 発電所起因の有無については、発電所運転状況、気象及び指標線量率等を用いて評価している。

※4 調査レベルは前年度の平均値に標準偏差の3倍を加えて算出した数値である。

(2) 放水口モニター

調査機関	局名	海水(放水)中全ガンマ線量率 調査レベル ※5					発電所起因 ※7 データ数(個)			
		設定値 (cpm)	超過数(個) ※6			割合(%)	1月	2月	3月	合計
			1月	2月	3月					
東北電力	1号機 放水口モニター(A) ※8	346	-	-	(768)	(66.67)	-	-	0	0
	1号機 放水口モニター(B) ※8	327	-	-	(837)	(72.66)	-	-	0	0
	1号機仮設 放水口モニター ※9	421	172	163	702	1037	0	0	0	0
東北電力	2号機 放水口モニター	449	2	0	0	0.02	0	0	0	0
	3号機 放水口モニター	500	4	0	2	0.05	0	0	0	0

※5 調査レベルは前2カ年度の平均値に標準偏差の3倍を加えて算出した数値である。ただし、1号機仮設放水口モニターの調査レベルは令和4年度第2四半期の平均値に標準偏差の3倍を加えて算出した数値である。

※6 1号機放水口モニターは、2号機及び3号機及び3号機放水口モニターとは測定環境が異なるため、海象条件他の要因による天然核種の影響により計数率が上昇しやすく、超過数(個)が多くなる傾向がある。

※7 発電所起因の有無については、発電所運転状況及び気象等を用いて評価している。

※8 1号機放水口モニター(A)及び(B)の欠測は、1号機流路縮小工事による放水路内の水位低下に伴い、測定ができなかったことによるものであり、令和4年7月7日に測定を停止し、令和5年3月24日から測定を再開した。また、( )は、有効データ数が当該月及び当該四半期の半数に満たないことから参考値扱いとしたことを示す。

※9 1号機仮設放水口モニターは、令和4年7月7日～令和5年3月23日の期間、本設設備の代替測定を実施し、令和5年3月24日～3月29日の期間、本設設備と並行測定を実施した。また、下線部は、1号機仮設放水口モニターの評価結果であることから、参考値扱いとしたことを示す。

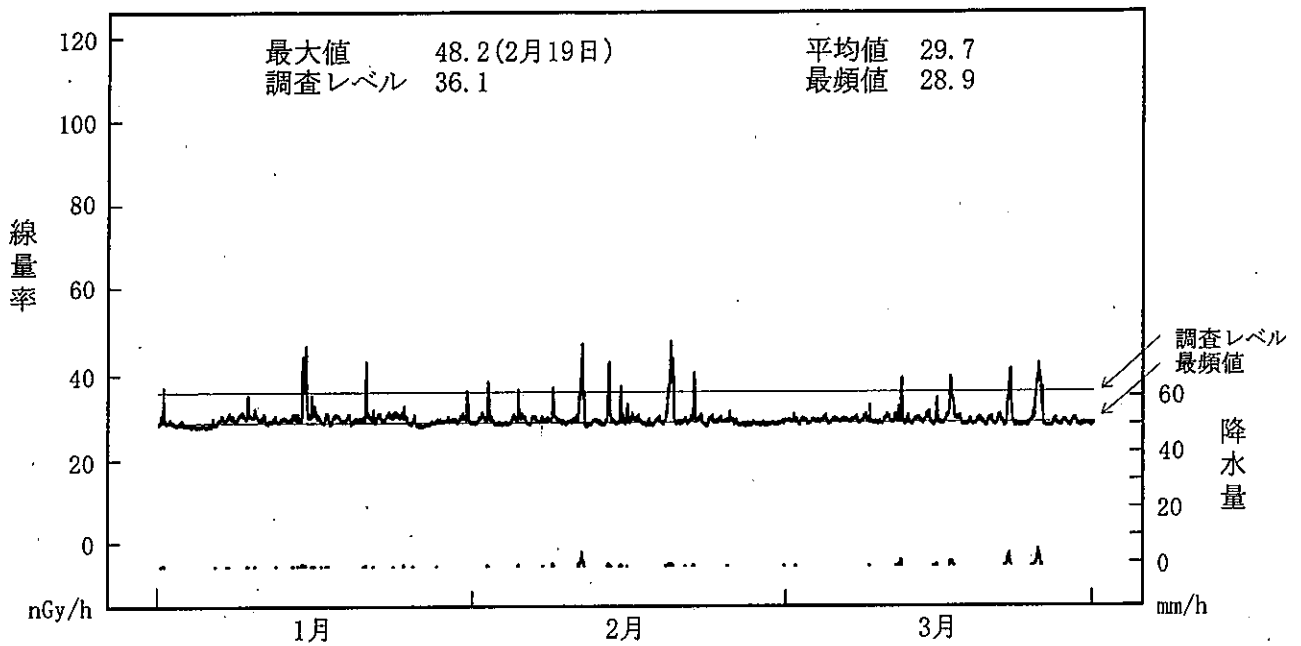


図-2-1 空間ガンマ線量率監視結果 (女川局)

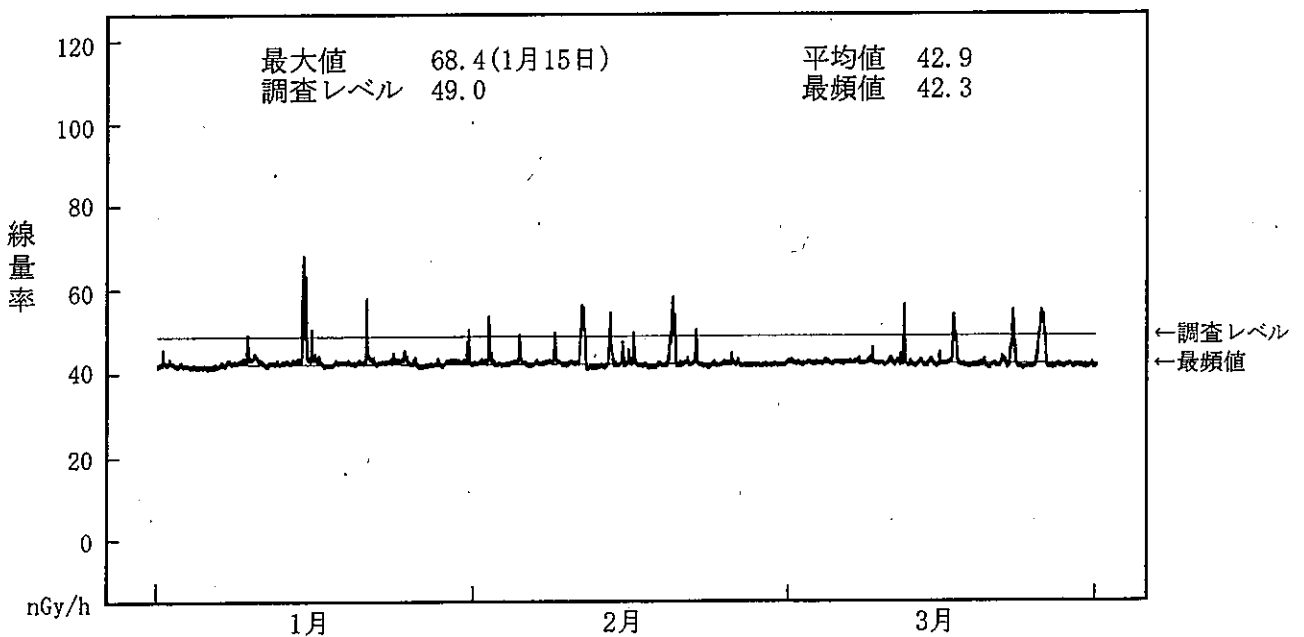


図-2-2 空間ガンマ線量率監視結果 (飯子浜局)

令和4年度

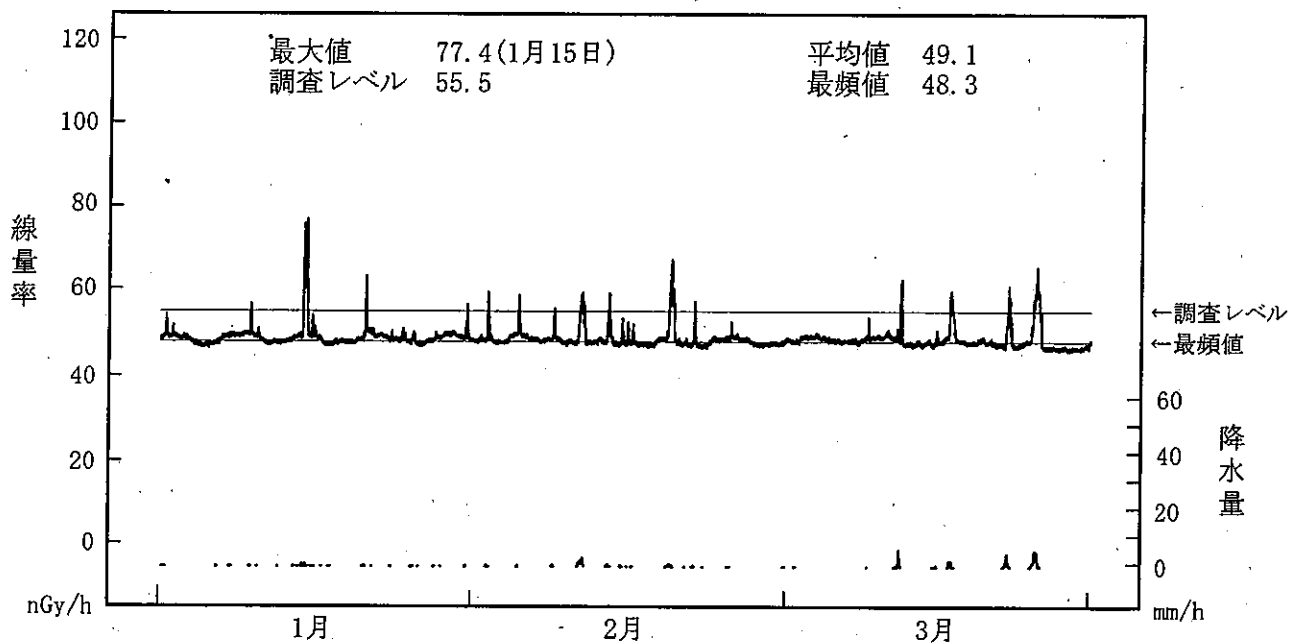


図-2-3 空間ガンマ線量率監視結果 (小屋取局)

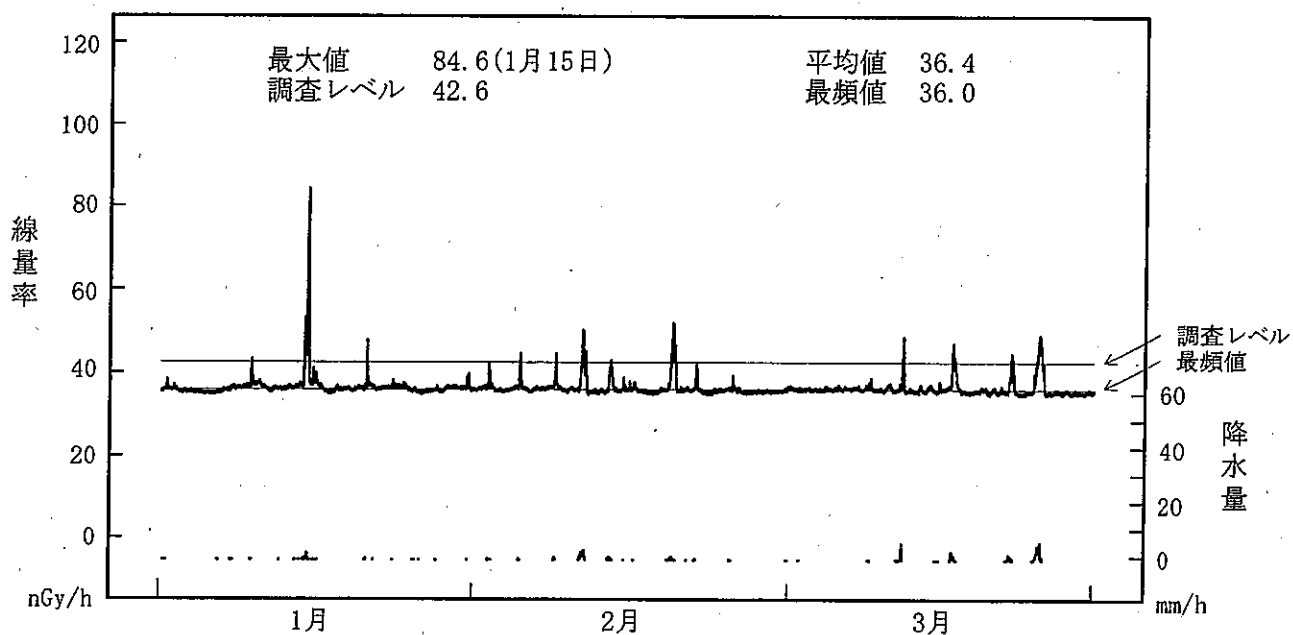


図-2-4 空間ガンマ線量率監視結果 (寄磯局)

令和4年度



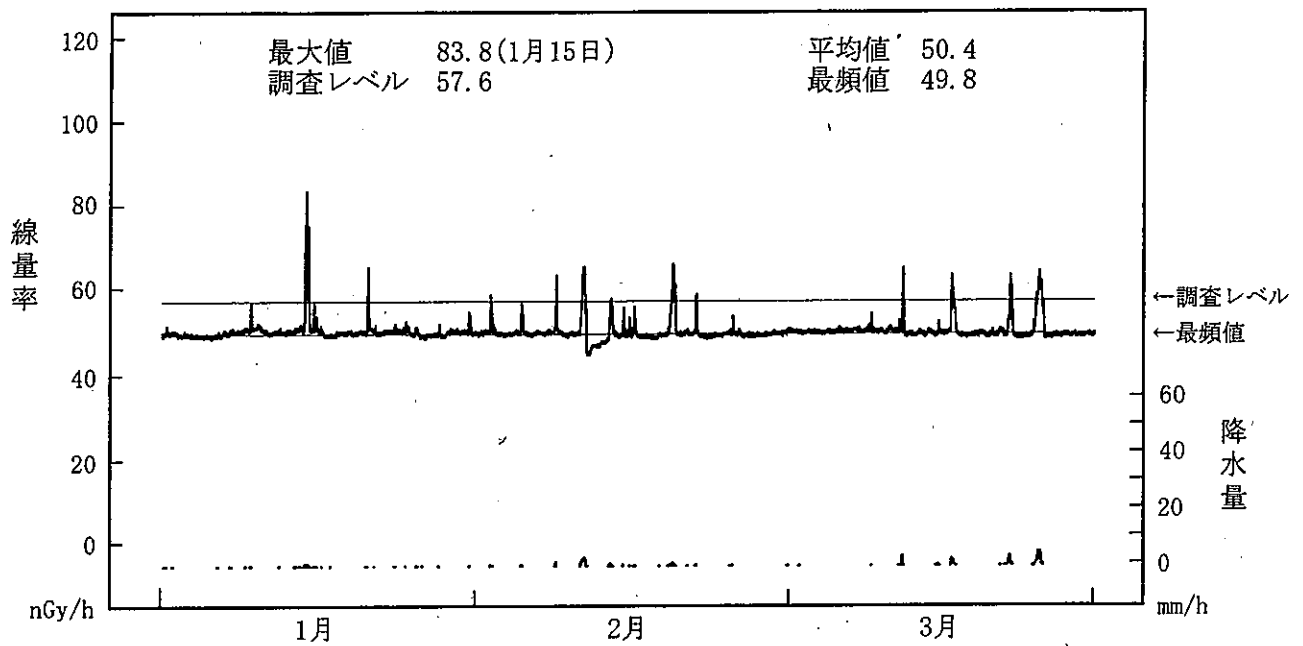


図-2-5 空間ガンマ線量率監視結果 (鮫浦局)

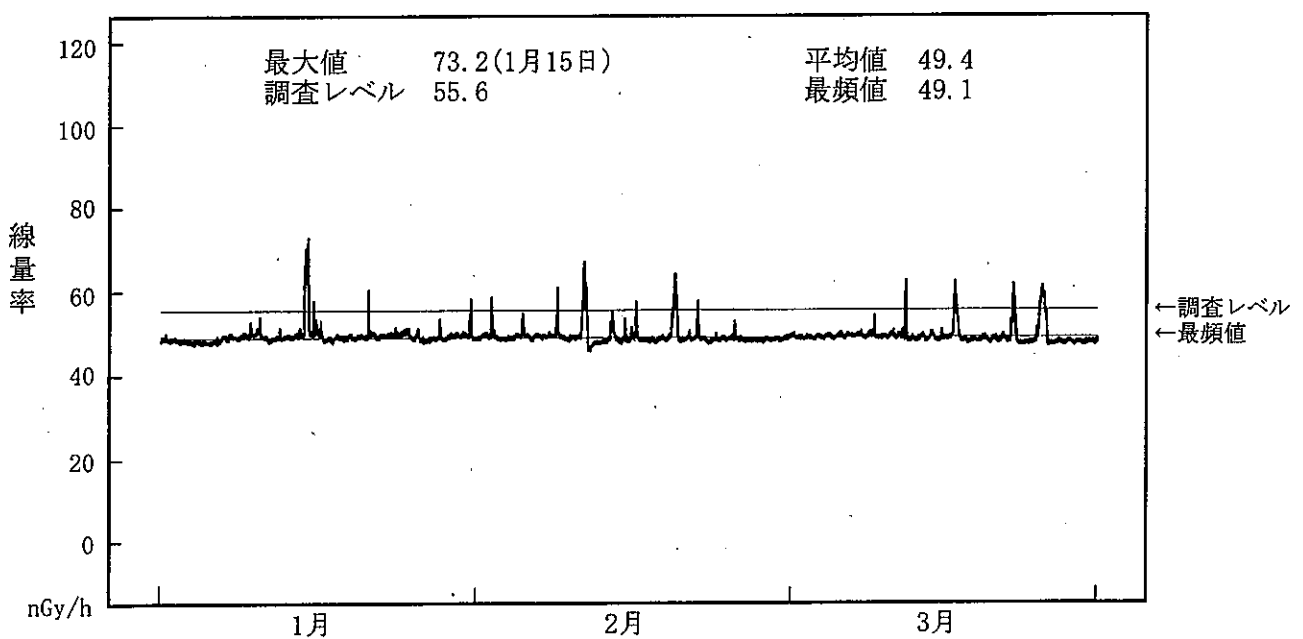


図-2-6 空間ガンマ線量率監視結果 (谷川局)

令和4年度

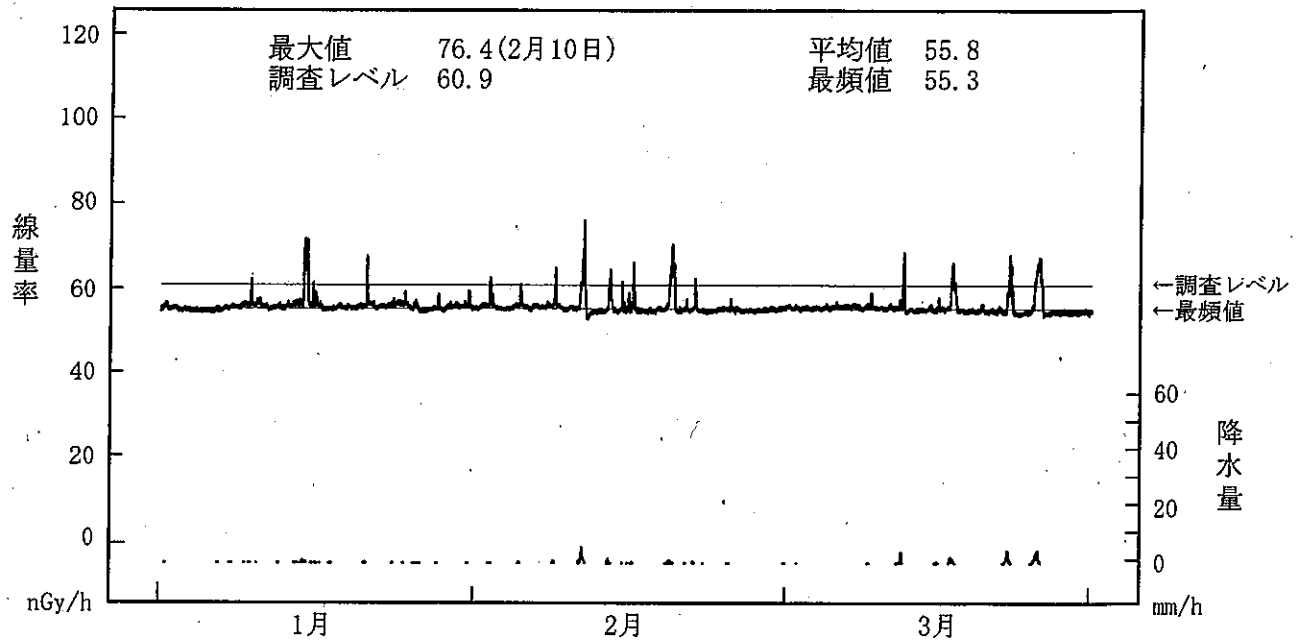


図-2-7 空間ガンマ線量率監視結果 (荻浜局)

令和4年度

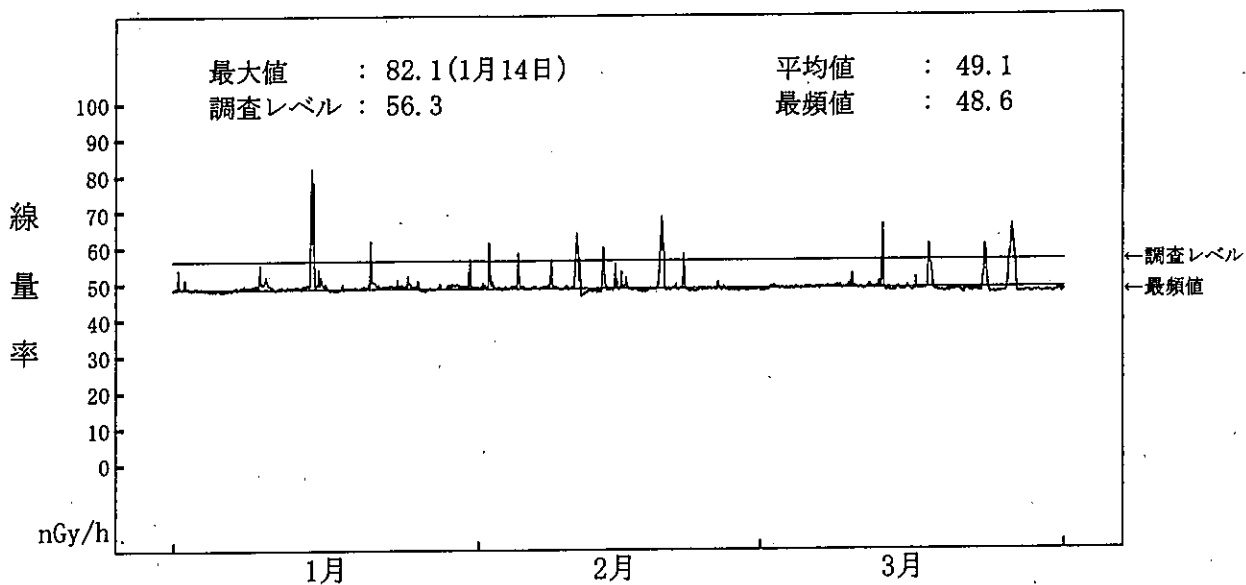


図-2-8 空間ガンマ線量率監視結果 (塚浜局)

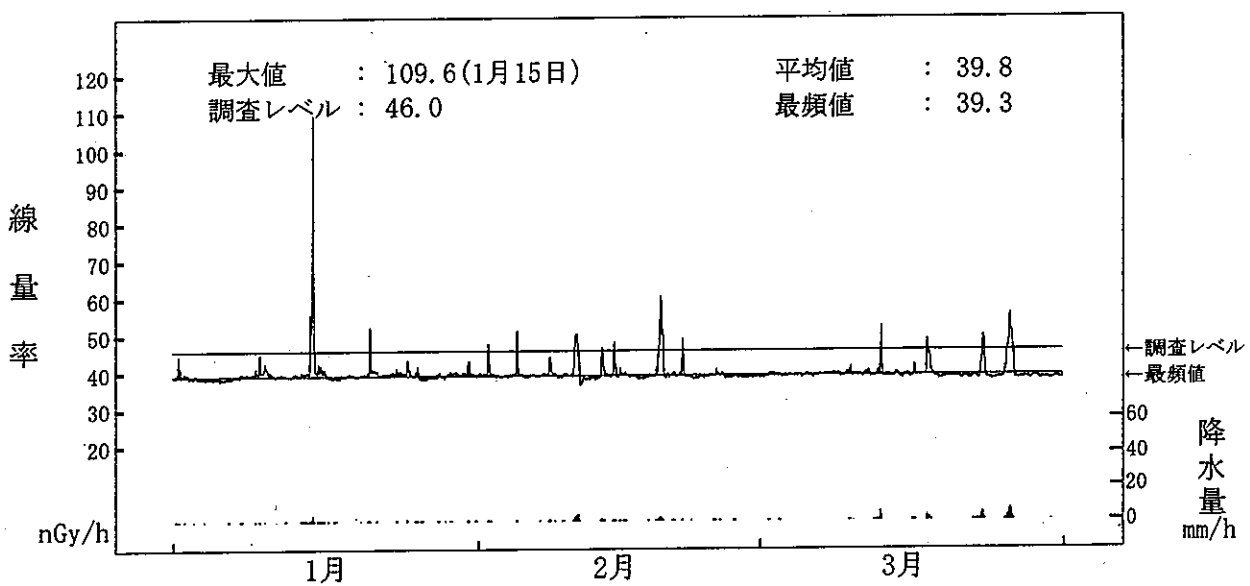


図-2-9 空間ガンマ線量率監視結果 (寺間局)

令和4年度

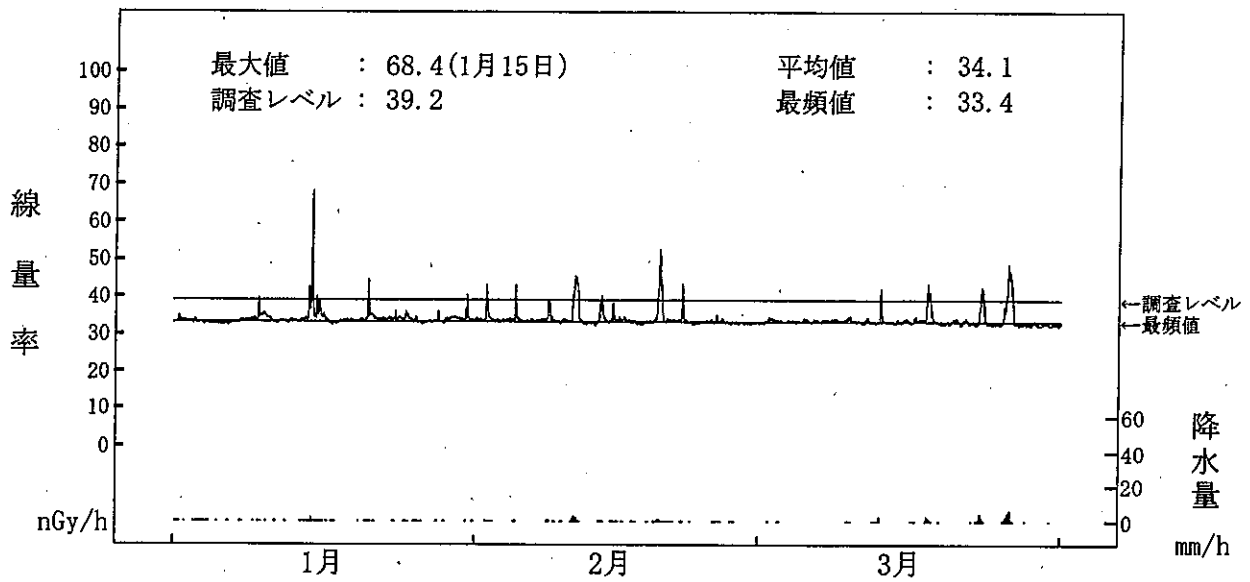


図-2-10 空間ガンマ線量率監視結果 (江島局)

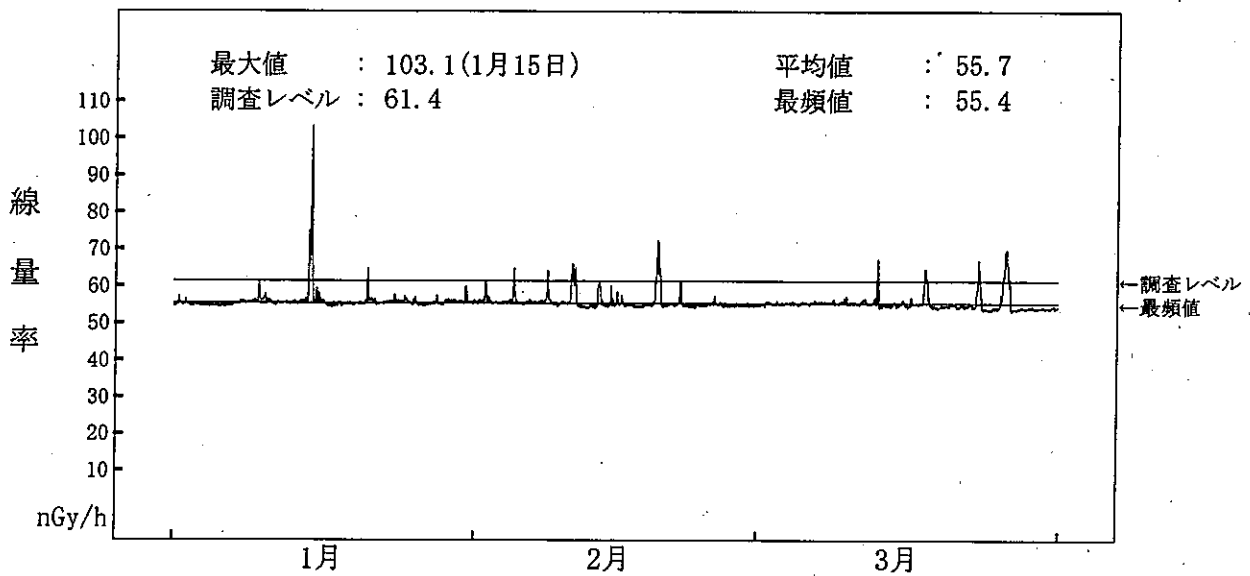


図-2-11 空間ガンマ線量率監視結果 (前網局)

令和4年度

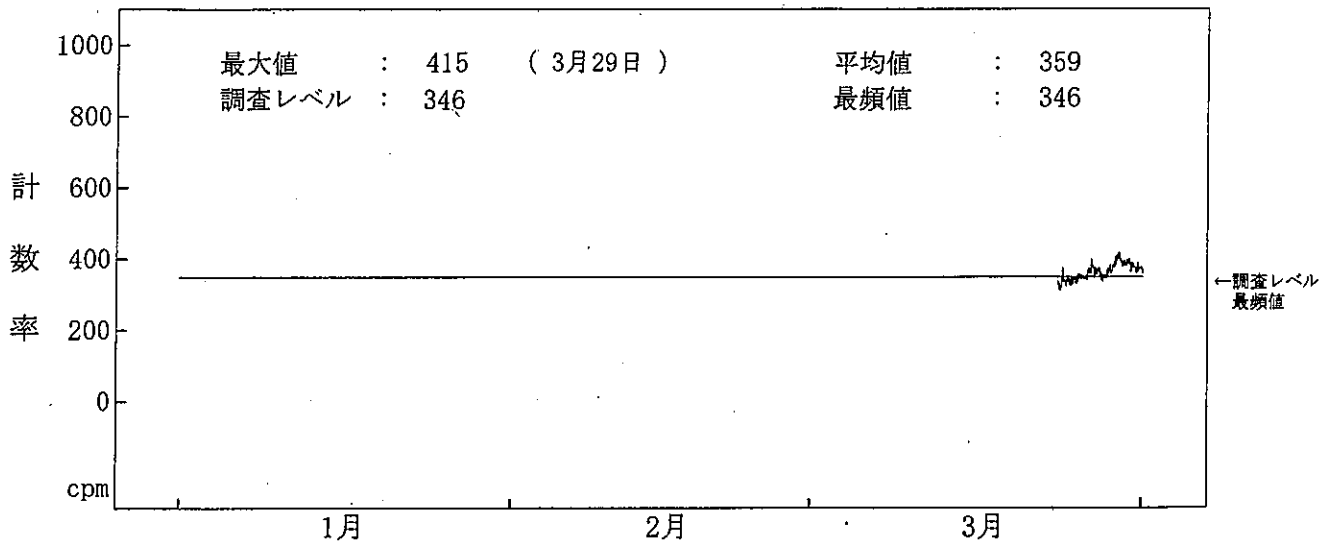


図-2-12 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(1号機放水口モニター(A))

(注) 1月1日～3月23日の欠測は、1号機流路縮小工事による放水路内の水位低下に伴い、本設備での測定ができないことによるものである。

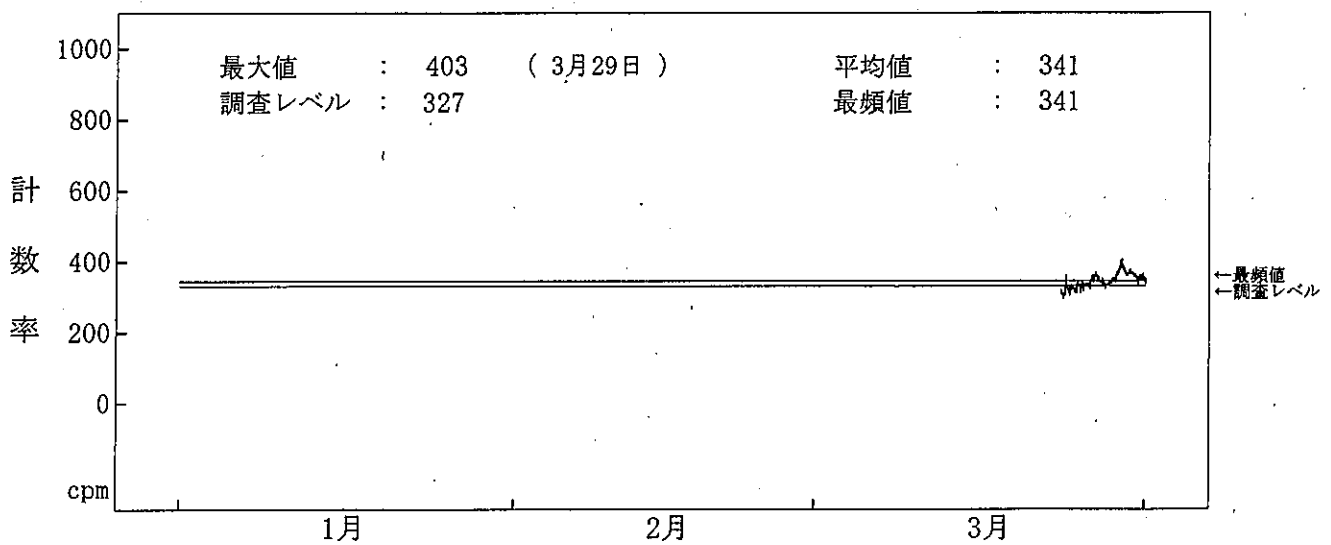


図-2-13 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(1号機放水口モニター(B))

(注) 1月1日～3月23日の欠測は、1号機流路縮小工事による放水路内の水位低下に伴い、本設備での測定ができないことによるものである。

令和4年度

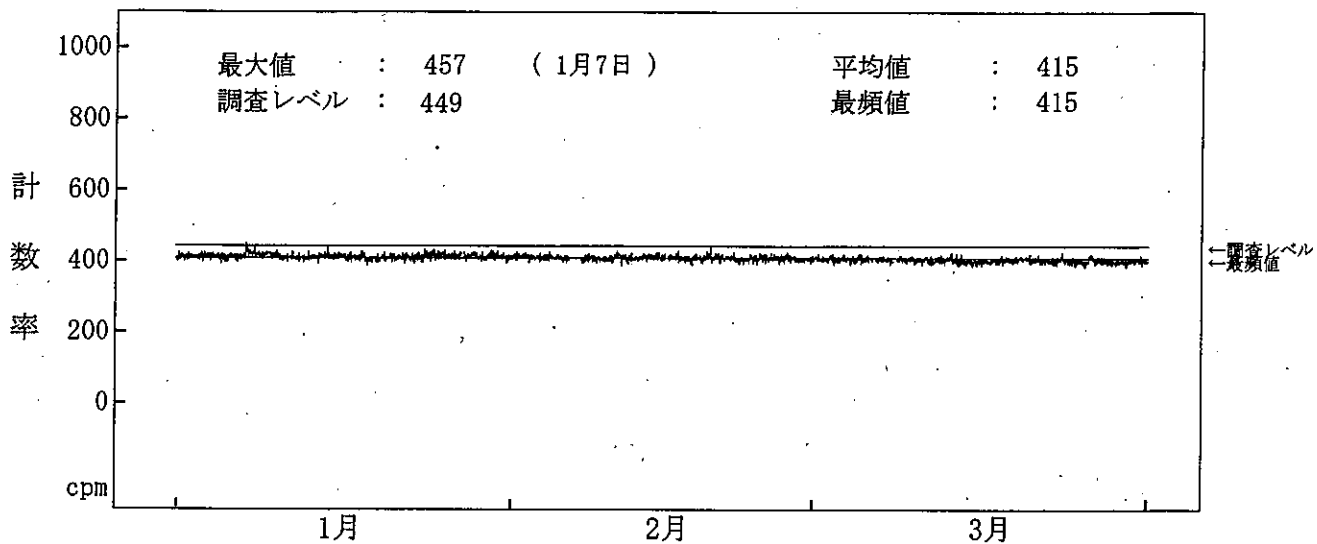


図-2-14 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(2号機放水口モニター)

(注) 1月27日、2月6~7日、2月15日、3月6日及び3月8日の欠測は、定期点検によるものである。

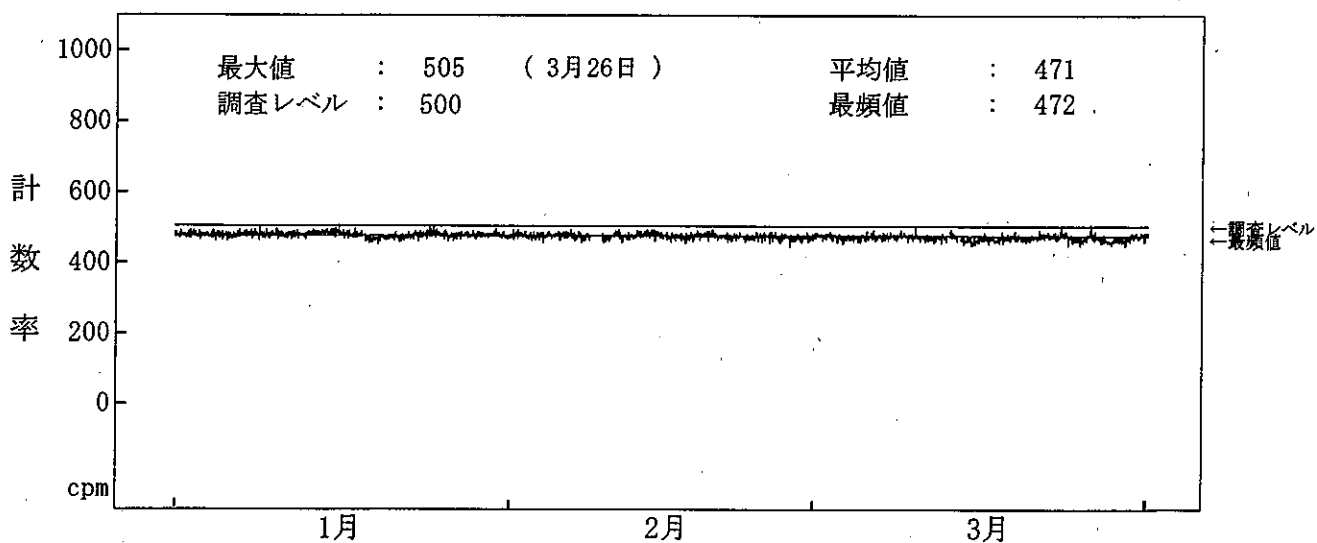
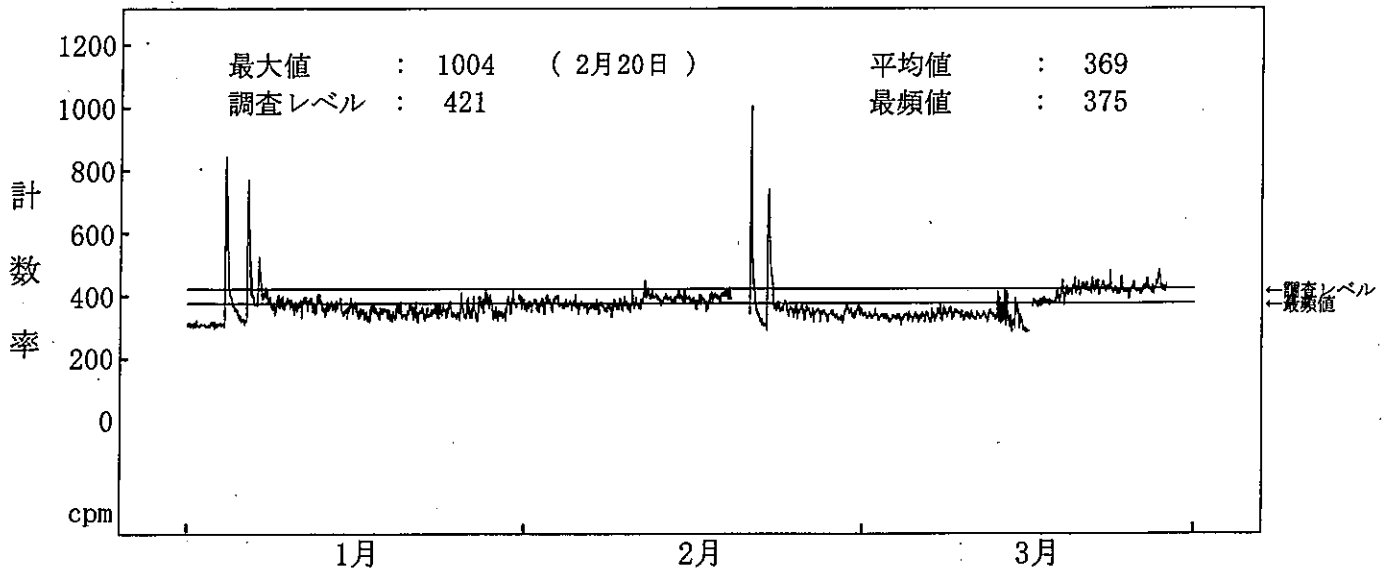


図-2-15 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(3号機放水口モニター)

(注) 1月18日、2月8~9日、2月22日及び3月13日~14日の欠測は、定期点検によるものである。

令和4年度

(参考)



#### 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(1号機仮設放水口モニター)

- (注) 1号機流路縮小工事による放水路内の水位低下に伴い、本設備での測定ができないため、令和4年7月7日～令和5年3月23日の期間、仮設放水口モニターによる代替測定を実施し、令和5年3月24日～3月29日の期間は、本設備と並行測定を実施した。
- 1月4日～1月6日及び2月20日～2月22日の変動については、1号機流路縮小工事の一環で放水路内の水位低下作業を実施したことにより、これまで放水路に溜まっていた天然放射性核種 (Rn-222、Bi-214等) を多く含む淡水層の排水の影響により上昇し、その後、天然放射性核種 (Rn-222、Bi-214等) の減少により低下したものと推定された。
- 3月17日の変動は、1号機流路縮小工事終了に伴い、本設備に切り替えるために放水路内を海水で水張りを行ったことにより、海水中の天然放射性核種 (K-40) の影響によりベースラインが上昇したものと推定された。
- 1月30日及び3月13日の欠測は、設備点検によるものである。
- 2月18日～2月20日までの欠測は、構内配電線停電作業によるものである。
- 3月17日の欠測は、設備点検及び放水路内の水張り作業によるものである。

令和4年度

## (2) 周辺環境の保全の確認

空間ガンマ線量率等のレベル並びに放射性核種の濃度及び分布について調査した結果、女川原子力発電所の影響は認められなかった。

### イ 電離箱検出器による空間ガンマ線量率

表-2-1に、モニタリングステーションにおける電離箱検出器による空間ガンマ線量率の測定結果を示す。最大値が寺間局で過去の測定値の範囲を、前網局で福島第一原発事故前の測定値の範囲を超過したが、気象条件等から降水により多量の天然放射性核種が降下したことによるものと考えられた。また、寄磯局においては、最小値が同事故前の範囲を下回った。

### ロ 放射性物質の降下量

表-2-2及び表-2-3に、降下物中の対象核種のうち、Mn（マンガン）-54、Co（コバルト）-58、Fe（鉄）-59、Co-60、Cs-134、Cs-137について分析した結果を示す（対照地点を除く）。なお、本期間における欠測はなかった。

分析の結果、Cs-137が検出されたが、これまでの推移や他の対象核種が検出されていないこと、女川原子力発電所の運転状況等から、福島第一原発事故の影響によるものと考えられる。

図-2-16に昭和61年度以降のCs-137に係る月間降下量（検出下限値以上。以下同じ。）、図-2-17に同事故後のCs-137に係る四半期間降下量、図-2-18に同事故後のCs-137に係る月間降下量及び図-2-19に同事故後のCs-134に係る月間降下量について、それぞれの推移を示す。

### ハ 環境試料の放射性核種濃度

人工放射性核種の分布状況や推移等を把握するため、降下物以外の種々の環境試料についても核種分析を実施した。なお、本期間における欠測はなかった。

表-2-4に迅速法による海水及びエゾノネジモクのI（ヨウ素）-131の分析結果を示す。I-131は検出されなかった。

表-2-5に環境試料の核種分析結果の概要を示す（対照地点を除く）。また、図-2-20から図-2-26には、福島第一原発事故後の各種環境試料中における人工放射性核種濃度（検出下限値以上）の推移を示す。

対象核種については、松葉、マガキ、海水及び海底土の試料からCs-137が検出された。これらのうち、松葉、マガキ及び海水については、同事故前における測定値の範囲内であった。海底土については、同事故前における測定値の範囲を超過していたが、これまでの推移から同事故の影響によるものと考えられる。

また、令和元年度から測定を開始したエゾノネジモクの試料からはSr-90が検出されたが、これまでの測定値の範囲内であった。

これら以外の対象核種については、いずれの試料からも検出されなかった。



表-2-1 空間ガンマ線量率測定結果（電離箱検出器による線量率）

種別	調査機	局名	項目	1月	2月	3月	前年度までの測定値 <sup>*1</sup>		単位
							最小値	～最大値	
空間 ガン マ 線 量 率	宮 城 県	女川	平均値	67.9	67.7	67.6	53.7	～ 103.3	nGy/h
			標準偏差	1.9	2.5	2.1			
			最大値	83.5	85.7	80.5			
			最小値	63.7	63.3	63.2			
		飯子浜 <sup>*3</sup>	平均値	82.8	82.4	82.1	—		
			標準偏差	2.2	2.5	2.3			
			最大値	106.3	98.5	97.5			
	小屋取	平均値	85.4	84.8	84.6	67.0	～ 124.3		
		標準偏差	2.5	2.6	2.5				
		最大値	111.7	103.0	101.3				
		最小値	80.3	79.8	79.5				
	寄磯	平均値	63.9	63.4	63.2	61.2	～ 105.0		
		標準偏差	2.4	1.9	1.7				
		最大値	101.7	76.5	74.7				
		最小値	60.8	60.3	59.8				
	鮫浦 <sup>*3</sup>	平均値	98.7	98.0	98.4	—			
		標準偏差	2.7	2.8	2.5				
		最大値	133.8	114.7	112.9				
		最小値	93.3	91.2	93.2				
	谷川 <sup>*3</sup>	平均値	82.8	82.3	82.2	—			
		標準偏差	2.1	2.4	2.2				
最大値		104.7	98.8	95.7					
最小値		79.0	78.0	78.5					
荻浜 <sup>*3</sup>	平均値	90.0	89.5	89.4	—				
	標準偏差	1.8	2.4	2.1					
	最大値	105.3	110.0	103.7					
	最小値	85.5	85.2	85.0					
東 北 電 力	塚浜	平均値	79.0	78.4	78.1	68.2	～ 126.3		
		標準偏差	2.5	2.6	2.5				
		最大値	110.2	96.8	96.5				
		最小値	75.7	75.0	74.8				
寺間	平均値	74.0	73.4	73.2	61.4	～ 121.0			
	標準偏差	3.8	2.5	2.3					
	最大値	139.3	93.9	90.0					
	最小値	70.7	69.8	69.9					
江島	平均値	64.8	64.5	64.2	56.4	～ 103.3			
	標準偏差	2.0	2.4	2.1					
	最大値	97.9	82.6	78.2					
	最小値	62.0	60.9	61.2					
前網	平均値	84.3	83.7	83.4	69.7	～ 126.3			
	標準偏差	2.8	2.2	2.2					
	最大値	126.8	100.0	98.3					
	最小値	81.1	80.0	80.1					

\*1 小屋取は昭和57年度から、女川及び寄磯局は昭和58年度から、塚浜、寺間、江島及び前網局は昭和59年度からの測定値の範囲を示す。

\*2 福島第一原発事故前後で区別して過去の測定値の範囲を示す。なお、震災の影響により、平成23年3月11日から平成23年4月～9月まで欠測が生じている（復旧時期は局により異なる）。

\*3 震災で被災したモニタリングステーションを移転、再建し、平成31年4月から測定を開始した。

(参考) 広域モニタリングステーション\*1における空間ガンマ線量率測定結果  
(電離箱検出器による線量率)

種別	調査機関	局名	項目	1月	2月	3月	前年度までの測定値*2 最小値～最大値	単位
空間ガンマ線量率	官 城 県	石巻 稲井	平均値	62.5	62.1	62.2	53.3 ~ 118.4	nGy/h
			標準偏差	1.8	2.6	2.5		
			最大値	80.0	80.0	76.7		
			最小値	60.0	56.7	58.3		
		雄勝	平均値	63.6	63.2	62.9	56.7 ~ 113.3	
			標準偏差	4.4	3.4	2.8		
			最大値	141.7	90.0	85.0		
			最小値	60.0	58.3	58.3		
		河南	平均値	60.2	59.5	59.8	53.3 ~ 143.4	
			標準偏差	2.0	3.0	2.8		
最大値	85.0		81.7	78.3				
最小値	55.0		53.3	56.7				
河北	平均値	64.5	63.5	63.9	53.3 ~ 128.3			
	標準偏差	1.9	2.8	2.5				
	最大値	83.3	81.7	80.0				
	最小値	60.0	56.7	58.3				
北上	平均値	75.1	74.1	74.2	68.3 ~ 141.7			
	標準偏差	1.9	3.1	2.3				
	最大値	90.0	98.3	88.3				
	最小値	71.7	66.7	70.0				
鳴瀬	平均値	60.5	59.9	60.3	55.0 ~ 130.0			
	標準偏差	2.0	3.2	2.7				
	最大値	81.7	83.3	78.3				
	最小値	55.0	53.3	55.0				
南郷	平均値	63.3	61.8	63.3	53.3 ~ 153.3			
	標準偏差	2.1	3.6	2.9				
	最大値	86.7	86.7	85.0				
	最小値	58.3	53.3	58.3				
涌谷	平均値	58.8	58.2	58.7	53.3 ~ 146.7			
	標準偏差	2.1	3.2	2.6				
	最大値	83.3	81.7	73.3				
	最小値	55.0	51.7	55.0				
津山	平均値	63.9	63.0	63.2	56.7 ~ 128.3			
	標準偏差	2.1	3.3	2.9				
	最大値	81.7	88.3	81.7				
	最小値	60.0	55.0	58.3				
志津川	平均値	62.5	62.1	62.1	58.3 ~ 126.7			
	標準偏差	1.9	3.2	2.5				
	最大値	83.3	85.0	76.7				
	最小値	58.3	56.7	58.3				

\*1 広域モニタリングステーションとは、原子力規制委員会「原子力災害対策指針（平成24年10月31日制定）」に示された「緊急防護措置を準備する区域（UPZ）」内に県が新たに設置したモニタリングステーションをいう。

\*2 平成25年度からの測定値の範囲を示す。

令和4年度

表-2-2 月間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果<sup>\*1</sup>

核種	令和4年度第4四半期測定値 <sup>*2</sup>		前年度までの測定値 <sup>*3</sup>		単位	
			(上段) 平成22年度～平成23年2月 (下段) 平成23年3月～令和3年度			
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値		
Mn-54	9	N D	749	N D	Bq/m <sup>2</sup>	
Co-58		N D		N D		
Fe-59		N D		N D		
Co-60		N D		N D		
Cs-134		N D		N D		
Cs-137		N D～0.36		N D		N D
				N D～0.14		N D～9248

\*1 N Dは検出下限値未満であることを示す。

\*2 女川町浦宿浜(女川オフサイトセンター)、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値を示し、対照地点(仙台市宮城野区幸町(環境放射線監視センター))の測定値を除く。

\*3 女川町浦宿浜(女川宿舎及び女川オフサイトセンター)、旧原子力センター(女川)、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値の範囲を福島第一原発事故の前後に分けて示し、対照地点(保健環境センター、旧原子力センター(仙台)及び仙台市宮城野区幸町(環境放射線監視センター))の測定値を除く。

表-2-3 四半期間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果<sup>\*1</sup>

核種	令和4年度第4四半期測定値 <sup>*2</sup>		前年度までの測定値 <sup>*3</sup>		単位	
			(上段) 平成11年度～平成22年12月 (下段) 平成23年1月～令和3年度			
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値		
Mn-54	5	N D	231	N D	Bq/m <sup>2</sup>	
Co-58		N D		N D		
Fe-59		N D		N D		
Co-60		N D		N D		
Cs-134		N D		N D		
Cs-137		0.30～0.54		N D		N D
				N D～8615		N D～8438

\*1 N Dは検出下限値未満であることを示す。

\*2 飯子浜、鮫浦、谷川浜、塚浜及び付替県道における測定値を示す。

\*3 飯子浜、鮫浦、谷川浜、尾浦、渡波、大原、塚浜及び付替県道における測定値の範囲を福島第一原発事故の前後に分けて示す。

表-2-4 迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモク中のI-131分析結果<sup>\*1</sup>

試料名	採取海域	令和4年度第4四半期測定値		(参考)過去の測定値範囲 <sup>*2</sup>		単位
		試料数	最小値~最大値	(上段)平成18年度~平成22年度 (下段)平成23年度~令和3年度		
				試料数	最小値~最大値	
海水	放水口付近	3	N D	31	N D	mBq/L
				128	N D	
アラメ	放水口付近	/	/	52	N D~0.30	Bq/kg 生
				31	N D	
	24			N D~0.13		
	34			N D~1.34		
	20			N D~0.13		
	28			N D~0.11		
	62			N D~0.47		
	93			N D~0.41		
エゾノ ネジモク	放水口付近	1	N D	—	—	Bq/kg 生
	前面海域	1	N D	6	N D	
				6	N D	
	周辺海域	1	N D	—	—	
	対照海域	3	N D	6	N D~0.17	
14				N D~0.13		

\*1 N Dは検出下限値未満であることを示す。

\*2 参考として海水については平成20年度~令和3年度の測定値の範囲を、アラメについては平成18年7月~令和3年度の測定値の範囲を、エゾノネジモクについては令和元年度~3年度の測定値の範囲を、それぞれ福島第一原発事故の前後に分けて示す。

表-2-5 環境試料の核種分析結果\*1

対象物	試料名	核種	令和4年度第4四半期測定値			前年度までの測定値*2			単位	
			試料数	最小値 ~ 最大値		平成2年度~平成22年度		平成23年度~令和3年度		
				最小値	最大値	最小値	最大値	最小値		最大値
農産物	精米	Sr-90				N D ~ 0.0089 *3	N D		Bq/kg生	
		Cs-137				N D ~ 0.035 *3	0.016 ~ 0.214			
	大葉根	Cs-137				N D ~ 0.085	N D ~ 1.11		Bq/kg生	
		Cs-137				N D ~ 0.015	N D ~ 0.588		Bq/kg生	
陸水	水道原水(飲料水)	H-3	2	N D		N D ~ 3200		mBq/L		
		Cs-137	3	N D		N D				
陸土	未耕土	Sr-90				1.3 ~ 1.6 *4	1.1 ~ 2.6		Bq/kg乾土	
		Cs-137				N D ~ 13.1 *4	23.5 ~ 317			
浮遊じん	浮遊じん	Cs-137	14	N D		N D		N D ~ 23.70		mBq/m <sup>3</sup>
指標植物	ヨモギ	Sr-90				0.065 ~ 1.00	0.029 ~ 0.54		Bq/kg生	
		Cs-137				N D ~ 0.17	0.29 ~ 40.1			
	松葉	Sr-90				0.86 ~ 1.83	0.87 ~ 2.10		Bq/kg生	
		Cs-137	1	0.259		N D ~ 0.74		0.219 ~ 1476		
魚介類	アイナメ	Sr-90				N D ~ 0.011	N D		Bq/kg生	
		Cs-137				0.062 ~ 0.21	0.12 ~ 10.16			
	マガキ	Sr-90	1	N D		N D		N D ~ 0.034		Bq/kg生
		Cs-137	1	0.050		N D ~ 0.058		N D ~ 1.13		
	マボヤ	Sr-90				N D		N D		Bq/kg生
		Cs-137				N D ~ 0.054		N D ~ 0.74		
エゾアワビ	Cs-137				N D ~ 0.053		N D ~ 0.22		Bq/kg生	
キタムラサキウニ	Cs-137				N D ~ 0.063 *5		0.035 ~ 1.66		Bq/kg生	
海藻	ワカメ	Sr-90				N D ~ 0.081		N D ~ 0.062		Bq/kg生
		Cs-137				N D ~ 0.080		N D ~ 2.39		
海水	表層水	H-3	2	N D		N D ~ 670		N D		mBq/L
		Sr-90	1	N D		N D ~ 2.9		1.4 ~ 3.6		
		Cs-137	2	N D ~ 2.8		N D ~ 4.1		N D ~ 98		
海底土	表層土(砂)	Sr-90				N D		N D		Bq/kg乾土
		Cs-137	2	N D ~ 10.6		N D ~ 2.6		N D ~ 299		
指標海産物	アラメ	Sr-90				N D ~ 0.073		N D ~ 0.046		Bq/kg生
		Cs-137				N D ~ 0.16		N D ~ 12.76		
	エゾノネジモク	Sr-90	2	0.044 ~ 0.047		-		N D ~ 0.061 *6		Bq/kg生
		Cs-137	3	N D		-		N D ~ 0.13 *6		
	ムラサキイガイ	Sr-90				N D		N D		Bq/kg生
Cs-137		1	N D		N D ~ 0.096		N D ~ 0.54			

\*1 Cs-137、Sr-90及びH-3の測定値を示し、対照地点で採取された試料並びに迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモクの測定値を除く。なお、N Dは検出下限値未満であることを示す。

\*2 福島第一原発事故の前後に分けて示す。

\*3 平成11年度の測定基本計画変更によって測定地点が谷川浜のみとされたため、精米の平成2年度~22年度については谷川浜における測定値の範囲を示す。

\*4 平成21年度の測定実施計画変更によって測定地点が変更されたため、平成21年度~22年度における測定値の範囲を示す。

\*5 平成11年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、平成11年度~22年度における測定値の範囲を示す。

\*6 令和元年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、令和元年度~3年度における測定値の範囲を示す。

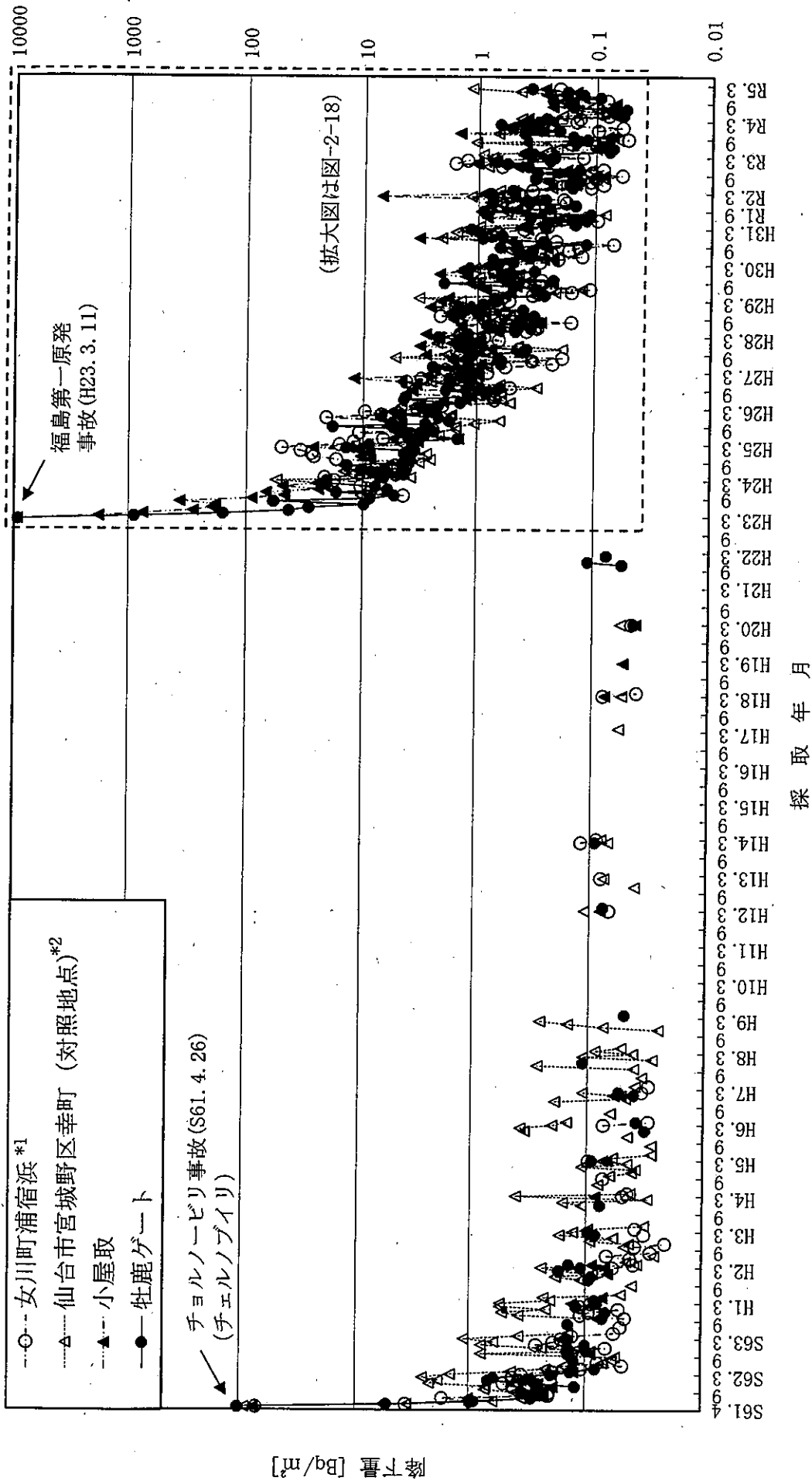


図-2-16 Cs-137の月間降下量の推移

\*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。  
また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地区内の女川宿舎から女川オアサイトセンターに変更している。

\*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。なお、平成9年4月1日に、仙台市宮城野区幸町の保健環境センターにおける採取場所を建物屋上から前庭地上へ変更した。

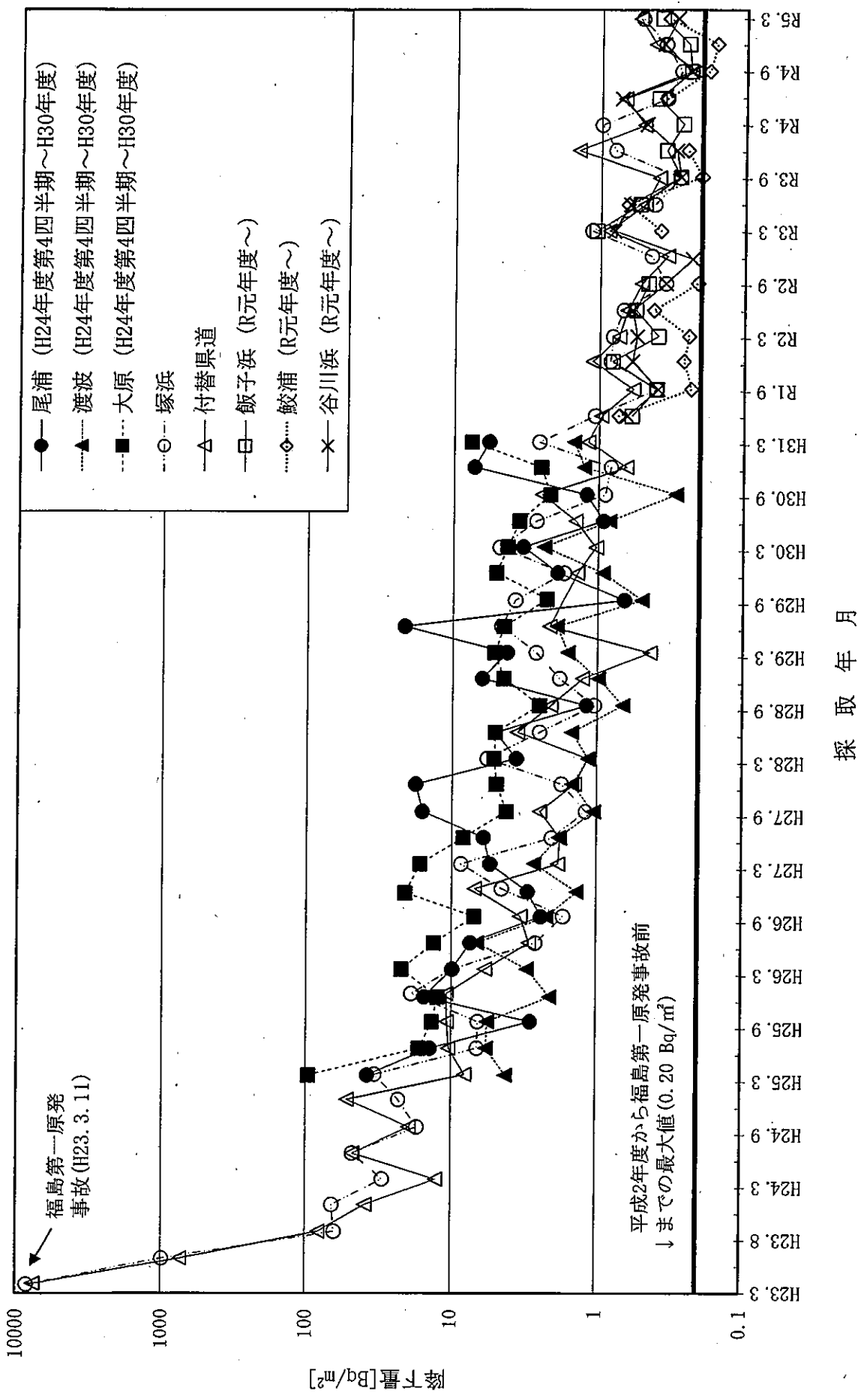


図-2-17 Cs-137の四半期間降下量の推移

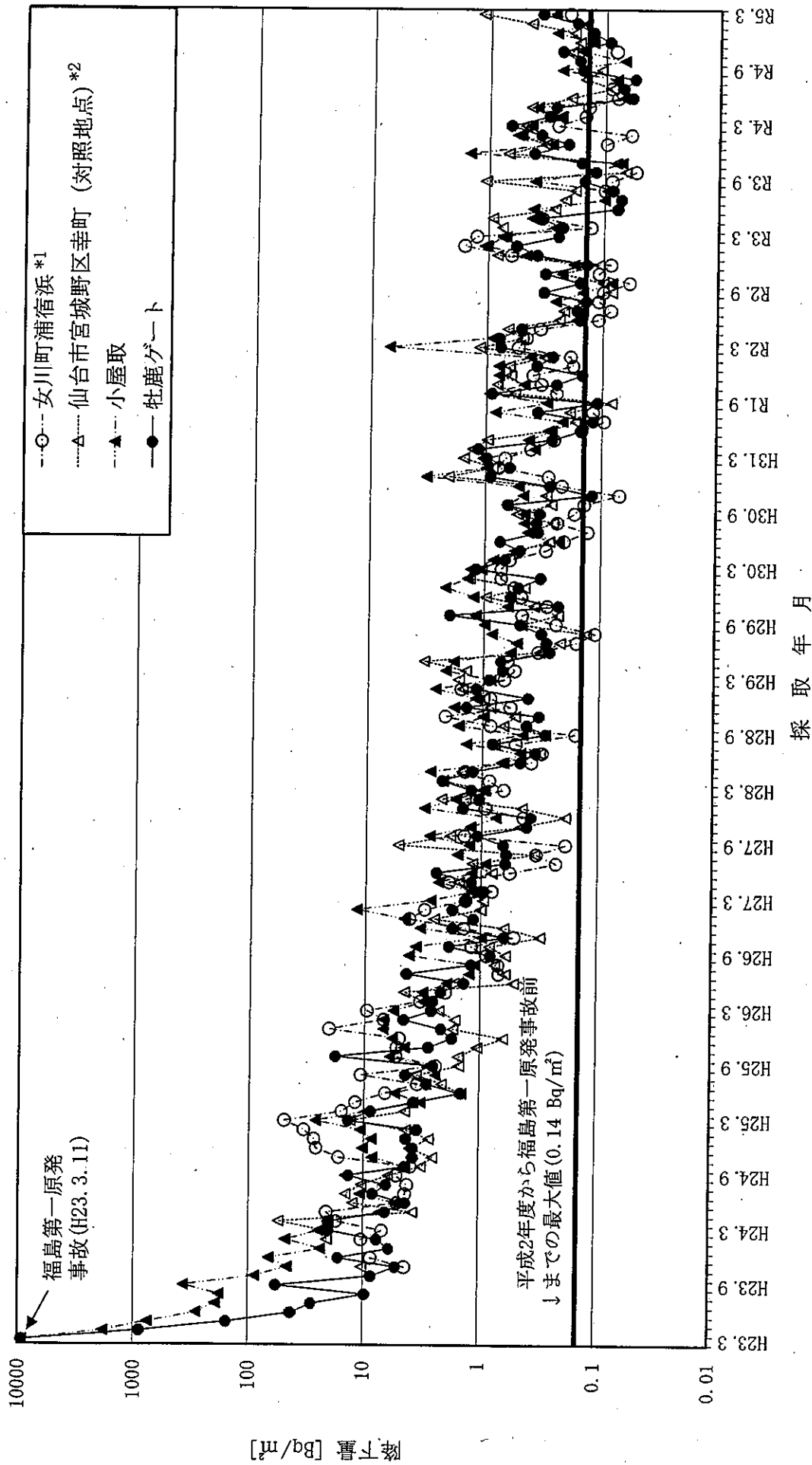


図-2-18 福島第一原発事故後のCs-137の月間降水量の推移

\*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。

また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オブサイトセンターに変更している。

\*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。



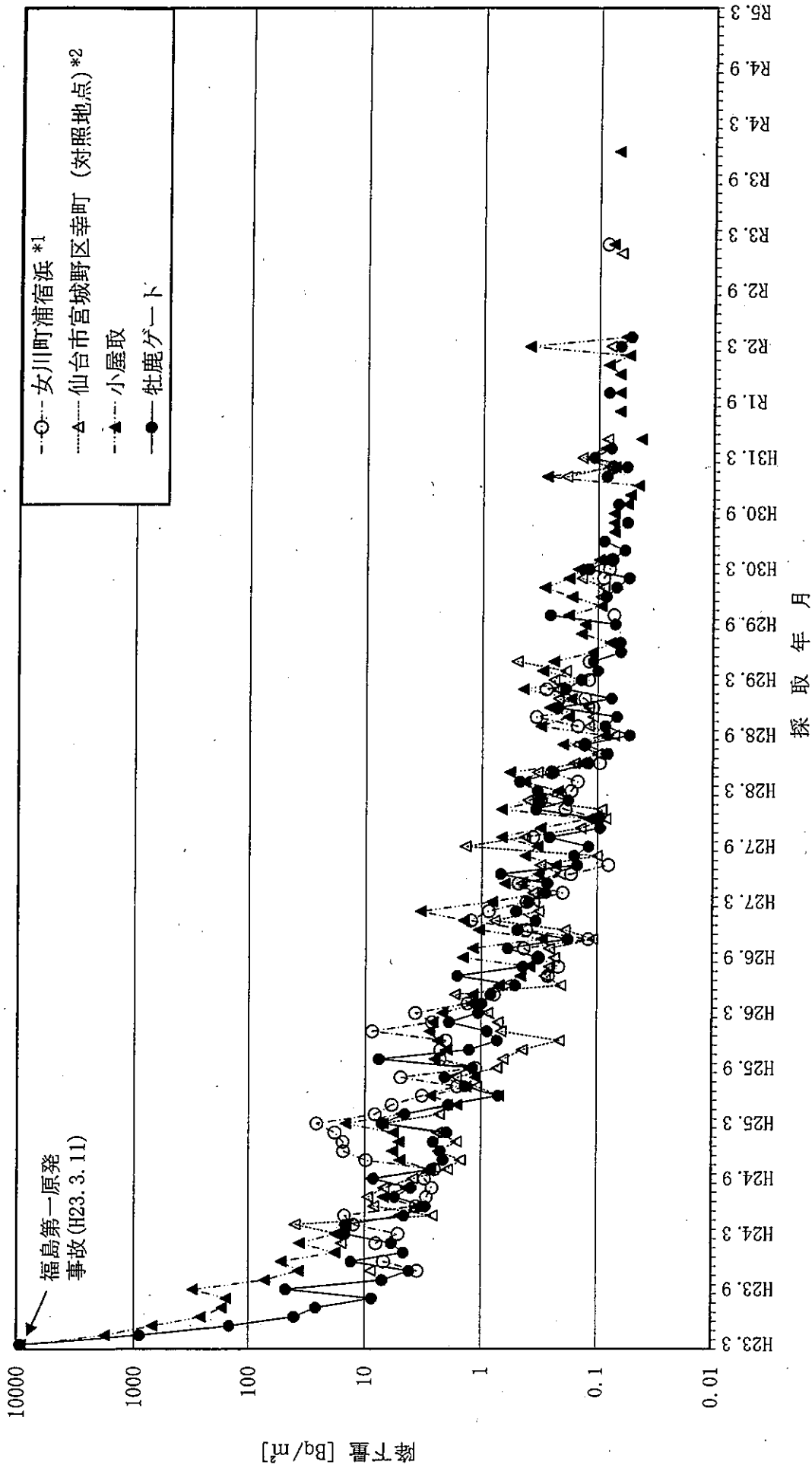


図-2-19 福島第一原発事故後のCs-134の月間降下量の推移

\*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。

また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オファサイトセンターに変更している。

\*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。

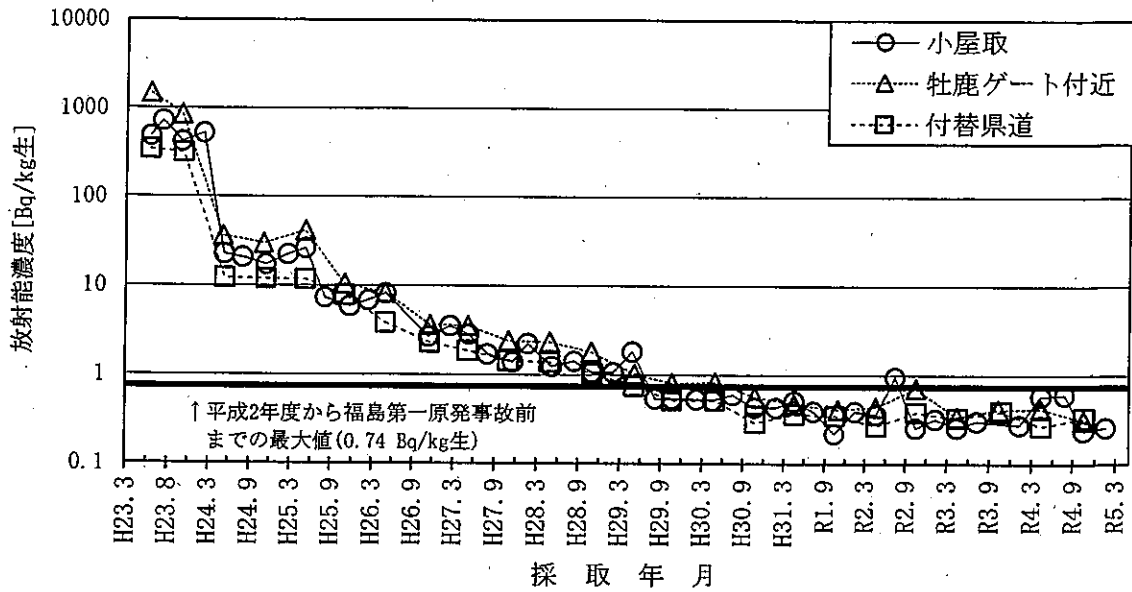


図-2-20 松葉のCs-137濃度の推移

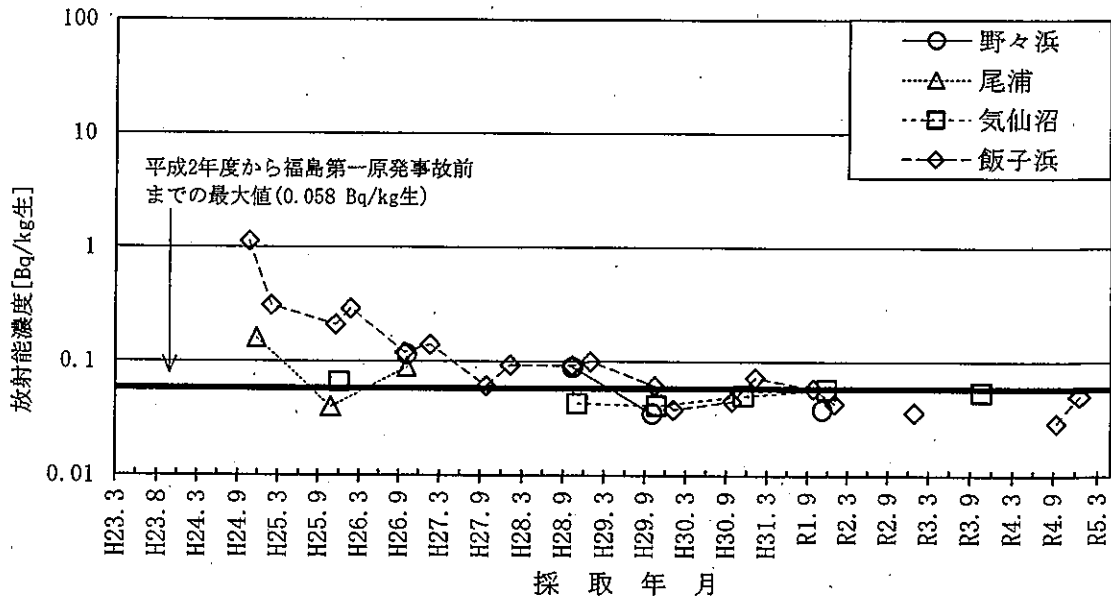


図-2-21 マガキのCs-137濃度の推移

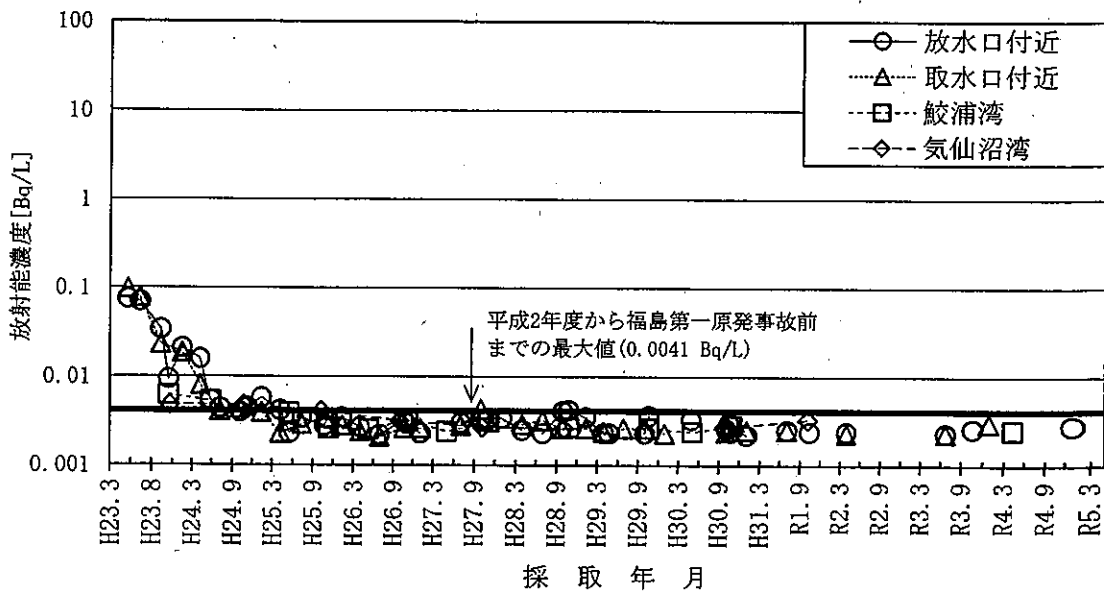


図-2-22 海水のCs-137濃度の推移

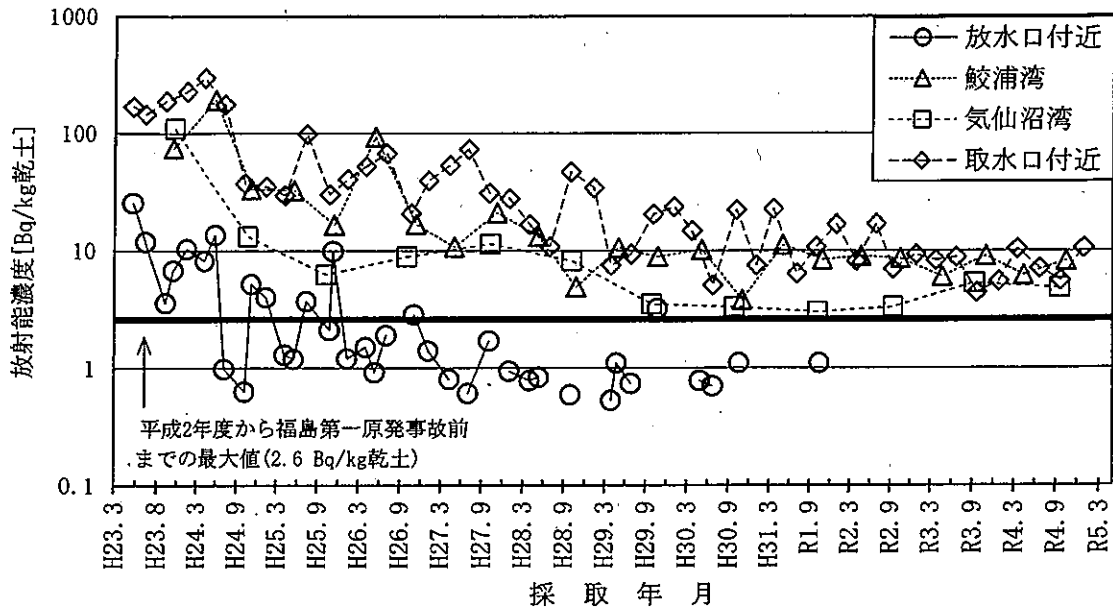


図-2-23 海底土のCs-137濃度の推移

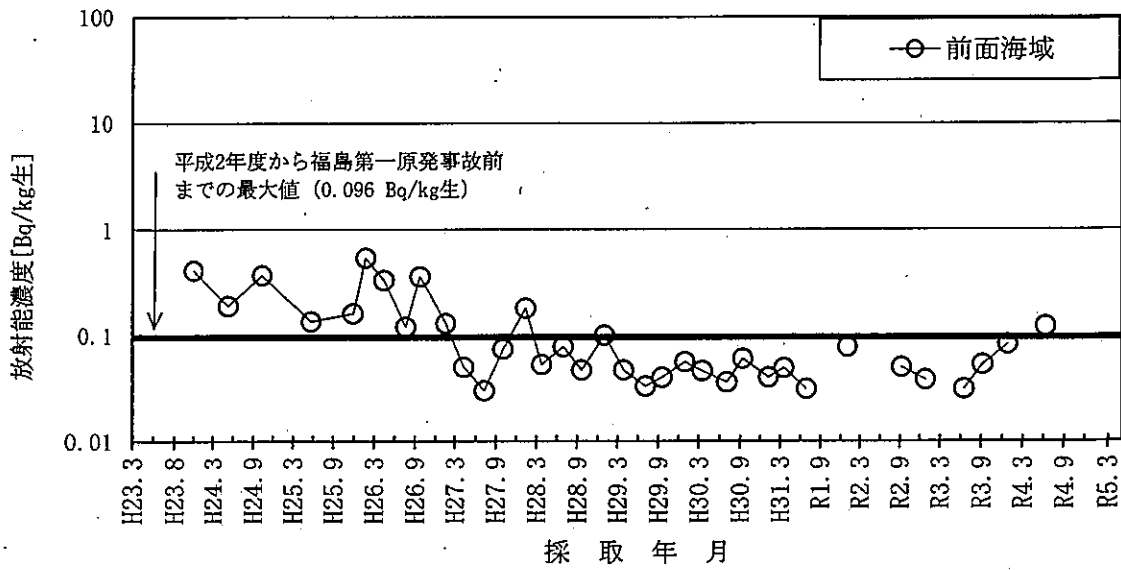


図-2-24 ムラサキガイのCs-137濃度の推移

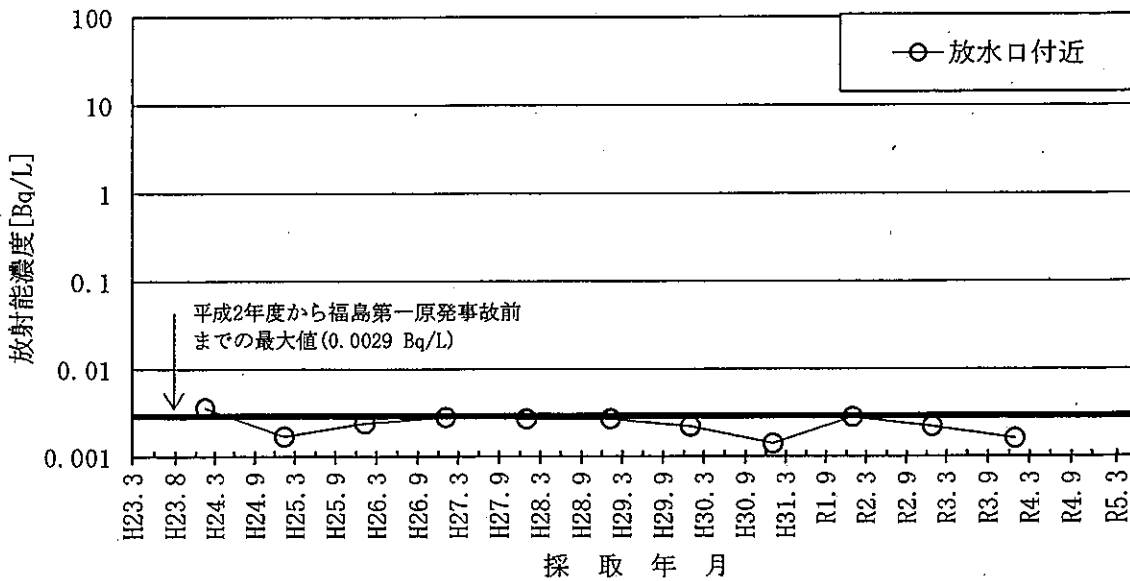


図-2-25 海水のSr-90濃度の推移

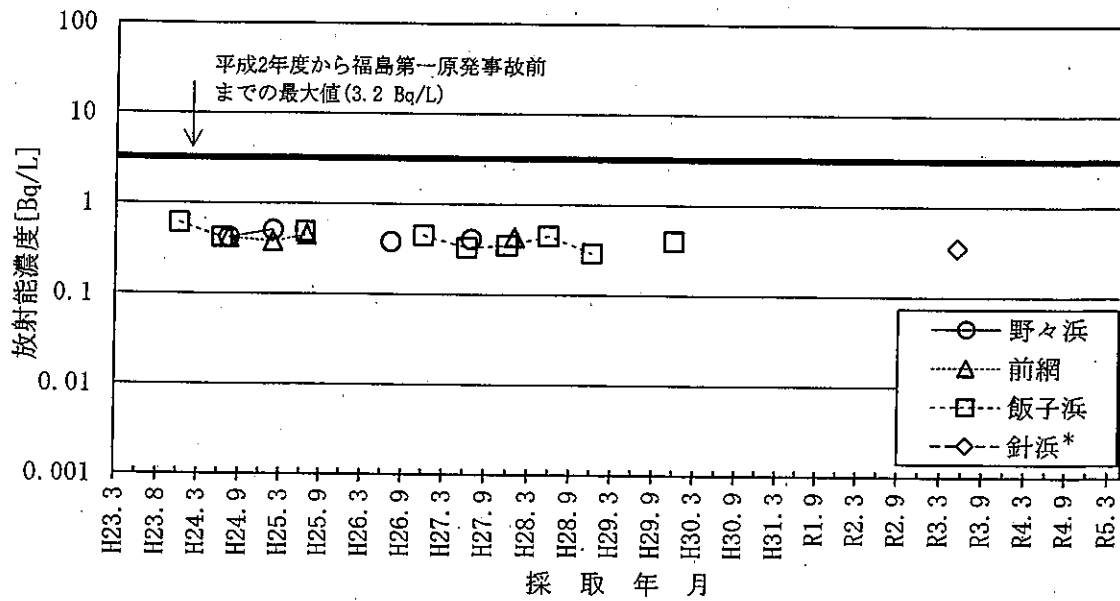


図-2-26 陸水のH-3濃度の推移

\* 令和元年度の測定基本計画変更によって採取地点が飯子浜から針浜へ変更された。